



カトリック

三軒茶屋教会

おとずれ

2015年11月22日発行 第60巻第8号



王であるキリスト

ミサの式次第変更（3）

主任司祭 ミカエル 湯澤民夫 神父

「聖書朗読は、神の言葉の食卓である朗読台から行う」。「朗読台」を今までどのように見ていただろうか。ミサ総則の第三版では、「朗読台が持つ品位は、ことばの奉仕者だけが立つように求めている」とある。言葉は、第一義的に「神のみ言葉」を指すが、そこで唱えられる「答唱詩編」や「復活賛歌」、「説教」や「共同祈願の意向」も指している。

今回、「信徒ではない人は、朗読ができないのですか？」と、よく質問された。総則も今回の変更箇所についての文書でも、一言も、「信徒ではない人は、朗読できない」とは書いていない。「ミサの中で聖書を朗読する務めは、洗礼によって受けた祭司職の行使である」と、書かれているだけである。そして、だから「福音以外の朗読は信徒の朗読者が行います」と続く。しかし、それは、非常に重要なことを思い起こさせてくれる。「信徒の役務の行使」ということである。この役務は、洗礼を受けた者は、洗礼を受けた時点で誰でも受けた役務である。別な言葉で、「キリストの共通祭司職」、古くは、「信徒使徒職」と言っていた。今回、この役務の自覚を促されたと言える。つまり、信徒ではない人に出来るかどうかの問題ではなく、信徒が洗礼から受けてこの役務を思い起こし、それを行使しなさい、と自覚を促されているということです。

ところで、答唱詩編や共同祈願を唱えることと違って、もう一つ思い起こさせてくれることは、そこで朗読されているのは、「神の言葉」だということである。いや、朗読されているのではなく、語られているのだ。直接神が朗読者を通して語っている。だから、「神の言葉」なのである。今回は、言葉に関しては全く触れていないが、朗読の後、朗読者或いは侍者が「神の言葉」という場合がある。言葉通りである。だから、朗読を聞くのではなく、そこで語られる神のことばを聞くのである。神が「今・ここで」私に語りかける言葉を聞くのである。

『申命記』に、「聞け、イスラエルよ。主こそ、ただ主だけが私たちの神である」(6.4)とある。これが荘厳に朗読されるとしたら、聞く私たちも最高の荘厳さに包まれるだろう。マルコは、最も重要な掟の第一を語る時、この一言を省くことができなかつた。私には、その気持ちが分かる。そのように、ミサの中の「神のことば」の朗読は、荘厳な一つの出来事なのである。朗読者は朗読することで、聴衆（会衆）は聞くことで、その出来事に立ち会うのである。

聖書朗読、福音朗読、説教は、神の言葉の出来事であって、それを考えると、信徒の祭司職の行使、そして、司祭の祭司職の行使であることの意味がよくわかるであろう。朗読する者も聞く者も、共に神の荘厳な出来事を、そしてその素晴らしさを味わってみませんか。

2015年バザーを終えて

今年も、たくさんの方々にご協力いただいて、今年も当教会のバザーを無事に開催することができました。例年のことではありますが、みなさまのご尽力に感謝することしきりであります。ありがとうございました。

実は前日に会場設営を終えた後、夜半から明け方にかけて台風かと思うくらいの強い風が吹き荒れていたのが心配はしていました。残念ながら設置していたテントはもの見事に吹き飛ばされて、当日、何張かのテントは使用不能になってしまい、園庭での出店の方々には露天状態で対応いただくこととなり、たいへん申し訳ないことをいたしました。一方で、当日はお天気もよく、非常に心地よい秋晴れの中、楽しい時間をすごすことができました。これで、雨でも降っていたら大幅な会場見直しを迫られていたところなので、正直ほっとしました。

バザーはクリスマスと並んで、カトリックの信者ではない方々を教会にお招きする非常に貴重な機会です。

今年は、近隣へのチラシ配布は行いませんでしたが、その代わりにコーヒーチケットを付けた A4 版のパンフレットを用意して、知り合いの方に配っていたいたり、教会玄関に設置してとっていただく形にしました。結果として、昨年よりも多くの 50 名近い方がコーヒーに引き換えにこられました。もちろん、教会に来ていただいたからといって、そのままカトリックの信徒になることに直結するわけではありませんが、少しでもカトリックの雰囲気・教えにも触れていただければと考えています。

特に、この三軒茶屋教会のバザーにはみょうじょう幼稚園にも協力してもらっており、多くの園児や入園希望のファミリーが来場されるほか、すぐ近くの三軒茶屋小学校のこども達も来てくれるという恵まれた環境にあります。ゲームやおいしい食べ物、格安のお宝の数々など楽しいことはたくさんあります。ただ、せっかく来てくれた方達に、教会としてなにかメッセージを伝えられているかな、という思いをずっと持ち続けています。もちろん、来られる人たちも楽しいこと以上のことを期待しているわけではないんじゃないの？という声も重々わかっています。ただ、来てくれる 100 人に 1 人でもなにか伝わるのならば、いや、伝わることを願って場を用意すべきなんじゃないかと思っています。

今回は初めての取り組みとして、小聖堂を会場として、日曜学校とボーイスカウトの活動紹介をしてもらいました。残念ながら、集客の方は苦戦いたしました。正直、初年度としての成果はぜんぜんです。ただ、これこそ教会の本来的な役割だと考えていますので、今後も続けていきます。もちろん、今回はじめてやって

みて気づいたことを踏まえて、時間や場所・内容などは工夫していきます。また、これは日曜学校やボーイスカウトの取り組みだけを紹介していこうということではありません。成人の方に向けた入門講座や聖書講座もそうですし、山谷や震災被害地域に対する奉仕など、教会がかかわっている数多くの取り組みを、教会の外の方にも知っていただきたい、と思っています。（教会の中の人でさえ、多くの活動を部分的にしか知らないのではないかと思います。それはバザーとは別の機会に対応しようと思います。）

新たなことに取り組んでいこうとすると、何かとたいへんですが、ただ自然体でこれまでどおりのことをやっていくだけでは教会は広がっていかない状況にあるのは確かです。引き続き、みなさまのご協力を仰ぎながらよりよき教会を目指してまいりますので、よろしくお願ひいたします。（教会委員長 小野）



2015年バザーホール食堂光景

はじめに

「苦しみ、痛みのキリスト教的意味を探して」一癒しの秘跡としての病者の塗油についてと題して、小西 広志神父様をお迎えしての典礼研修会が9月27日（日）に開かれました。苦しみの意味をじっくり考察した上で病者の塗油についてお話が進みました。重い病気にかかった時のみならず、人生で避けては通れない哀しみや苦しみに遭遇した時にもキリスト者としてどう対峙していくかを教えて頂いたように思います。このような理解から以下に記させていただきます。

ミサの説教で

新見 南吉さんの童話「デンデンムシノカナシミ」の引用があり、私達が日頃感じる「哀しみ」や「苦しみ」についてのご自分の心境を交えてお話くださいました。このデンデンムシは悩みを持っているのは自分だけではないことを知ってほっとしたようですが、その「哀しみ」と「苦しみ」を自分で背負う他ないということでお話が終わっています。

講話第1部 哀しみや苦しみにある時人は「ことば」と「しるし」を求める

講話の冒頭、小西神父様は最近好んで読んでおられる書物からの影響もあり、また、ご自身が感じられている「哀しみ」を見つめる中で「苦しみ」や「哀しみ」を新たな切り口として「病者の塗油」を展開してみようと思いいになったそうです。童話「デンデンムシ」は自分の「哀しみ」を貝殻に閉じ込めて背負う他ないのですが、私達はどのようなのでしょうか・・・？と問いかけていらっしゃいました。

苦しみは神秘である

突然の病や理不尽な苦しみに遭遇した時に私達はその苦しみの意味を問います。「なぜ、私に？」と。東北大震災の直後に一人の少女、エレナちゃんが前教皇様にこう問いかけました。「神様とお話をできるポープ、なんでこどももこんなに悲しい目に遭うのですか？教えて下さい」と。前教皇様は応えて下さいました。「『他の人々が安心して生きているのに、あなた方がこれほどまでに苦しまなければならないのか？』その答えを持ち合わせていません。でも私達は気がついていきます。イエス様はあなた方、無垢な人々と同じように苦しまれたことを。そしてイエス様のうちにご自分をお示しになった真実の神様はあなた方のそばにおられるのだらうということ。このことが私は大切であると思えるのです」と。

苦しむ人は「ことば」と「しるし」を求める

「ことば」について。重病や災難に遭い苦しみのあまり心が闇に閉ざされることがあったとしても、決してその状態が続くものではない。「苦しみの意味を問う」こと自体がその人の心が外に開かれているということで、哀しみや苦しみの意味を教えてくれることば＝苦しみを受け入れて生きて行くことば（交わり）を探している。ただ、この時に周りに居る者が注意をしなければいけないこととして「苦しみは極めて固有のものなので、静かに哀しみと向き合い生き抜こうとする人に私達の勝手な想いで「頑張れ」と励ましたりしてはいけないということです。神父様はこのことを若松 英輔先生（三田文学編集長）の著作「生きる哲学」の一節を交えて話して下さいました。

次に「しるし」について。苦しみを受け止めるための「しるし」を求めているということについて、故人の魂の鎮魂のために始まった花火大会を例にとって話して下さいました。東北大震災の後のある夏の夜大切な人を失った人が花火大会を見てインタビューに答えてこう話していたそうです。「この花火からいのちを頂きました。」と涙ぐんで語っていた姿を見て神父様は「地上で生き残った人と天上の被災者が花火という『しるし』によってむすびついたのではないだろうか」と思われたそうです。

以上のお話の中にありました次の一節を記して第2部のお話に進みます。

「主イエスキリストが私と同じように十字架で苦しまれたという事実と私の苦しみに繋がりが持てたら苦しむ人はキリストの方へと心が向かっていくのではないか」

講話第2部 病者の塗油について

イエスは「ことば」であり「しるし」

イエスご自身が「みことば」であり（ヨハネ1：1）、神様が贈られた「しるし」である。そのイエスが行われた数々の奇跡には「ことば」と「しるし」が伴っている。例えばマルコ7章に見る癒しの奇跡には当時のヒーラーが使っているような呪文のようなことばではなくて日常のことば＝相手にわかる「ことば」が用いられている。イエスが「両耳に指を差し込み……」（「しるし」）、深く息をつき＝祈って「エファタ（開け）」（「ことば」）と言われると目が見えず口が回らなかった人は立ち直ったと記されています。

神の国の到来を告げるイエスの最大のしるしは「十字架」

イエスの奇跡による「ことば」と「しるし」はその生涯をかけて神の国の到来を告げる「しるし」となった。自ら十字架にかかってまで愛による神の国の到来を示された。その神の国を私達が受け入れるということは、神の愛を受け入れ上との関わりの中で生きて行くことが大切なのである。イエスにとって大切なことは、「癒す」ことよりも「神との関わりをもたらす」ことが重要だったのではないか。上記の「エファタ」

の話では「癒し」よりもこの人が神との関わりにもう一度いきていくことを目指して「開け」と言ったと思われる。

病者の秘跡の塗油とは

病者の塗油は病気の苦しみにある人に司祭の手を通してイエスの「ことば」と「しるし」を与えるものである＝キリストの「ことば」と「しるし」を頂くことなのです。不安や苦しみにある病者にとってその「ことば」と「しるし」が安心を与え、救いへと繋がっていく。「この苦しさの中で生きて行こう」という決断につながる恵みを頂くことであって、身体的に元気になるための秘跡ではない。

病者の塗油の働き

病者の塗油は苦しみや哀しみにある人がキリストと言う他者と結ばれていることを確認し、味わうための「ことば」であり「しるし」である。青年向けカテケージス「ユーキャット」にはこのように記されています。「あなたの苦しみが一番わかるのはキリストしかいない。キリストがあなたの苦しみを担っている。だから苦しくても閉じてはいけない。一人になってはいけない。いつも心を開いてキリストと共に生きて下さい」と。

病者の塗油は教会の秘跡

教会はその最初から「病人を大切に祈ってきた」ことを教皇フランシスコもとても大切にされています。8世紀まではこの塗油を信徒が担っていたが、11世紀に赦しの秘跡とペアで受けるようになってから司祭が行うことになっていった。しかし、本来は教会のメンバーで病人を訪ねてキリストの名のもとに油を塗って聖書のことばを伝えて祈り、「私達はあなたを見捨てていません」ということを伝える「ことば」と「しるし」が大切なのではないか。

実践的な問題について

*いつ病者の塗油を受けたらよいか。

カテケージスには「死が迫る病の時に」とありますが、「いつ」ということはわからないことなので、病者の塗油を受けることについては司祭に相談をすることが最も望ましい。

*教会の塗油であることの表現について

病者の塗油を授けに司祭だけで行くよりも信徒と一緒に行くことが良いのではないか。数人で行くということは「教会」を表すことが出来る。その時に同伴者も一緒にご聖体を拝領することも一つの表現になる。

*他の秘跡との関係

病者の塗油は赦しの秘跡と、または赦しの秘跡に聖体拝領を組み合わせることで、苦しむ人がキリストとの関わりを自覚して生きる力を戴けるようになるのではないかと思われる。

*病者の塗油の「ことば」は短い。

病者の油をとった司祭は病人の額と両手に塗油をする。

両手に塗油する時に「この聖なる塗油により慈しみ深いキリストが聖霊の恵みであなたを助け（前半）」、額に塗油する時に「罪から解放してあなたを救い起き上がらせて下さいますように（後半）」と唱える。

以上実践的な問題について箇条書きになりましたが、この後カトリック教会の信徒である私達に向けて神父様の願いとも聞こえるような以下のお話がありました。

病者の塗油を豊かに味わうには

正しい言葉での病者の塗油を行ったらその秘跡は有効です。しかし、受ける側の問題として以上述べて来たような「ことば」と「しるし」を受け留めるには普段からの信仰生活が問われるのではないだろうかという危惧を示唆されました。司祭は「秘跡に霊的な恵みが働くこと」を信じているからこそ秘跡を執行します。その霊的な恵みを豊かに味わえるように、苦しくても主イエスと共に生きて行く恵みを味わえるように普段の心構えが必要なのでは？ということのようです。具体的には、主の日にミサに預かり「みことば」と「ご聖体」という「ことば」と「しるし」を頂き、この恵みによって私達が支えられてきていることを信仰者として自覚すること＝信仰体験が大切なのではないかとのことです。

但し、ミサに来たくても来られない方等には、特に緊急の秘跡なので依頼があった時には司祭は病者の塗油を授けますと明言されていました。

終わりに

童話「デンデンムシノカナシミ」から始まった研修会のお話です。病者の塗油の恵みを有難く頂き味わうためには普段のミサ（みことばと聖体拝領）によって養われていることを育てていくことが大切であること。更には人生の様々な場面で出会う困難や苦痛にある時にこそ慈しみの心で守り共に歩んで下さる主イエスに心を開いていくことが大切であることを「ことば」と「しるし」を通して味わいました。これまでも伺っていますが「病人は教会の宝」という尊く優しい価値観を今回も伺い、新たに「病者にとって教会が宝となりますように」とこのレポートを閉じるにあたって思った次第です。

2015年10月度 教会委員会

日時：2015年10月11日（日）9：25～

出席：湯沢神父、教会委員（小野、鈴木、小林、金原、茂木）、典礼（安永芳）、
信仰養成（鈴木）、受付（一）、営繕（安永三）、広報（大坪）、財務（志立）

1. 2015年9月～2015年11月の行事（予定）

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| ① 敬老の日お祝い | 9月13日（日） |
| ② ピザパーティー | 9月13日（日） |
| ③ バザー会議（第3回） | 9月20日（日） |
| ④ 典礼研修会 | 9月27日（日）9:30-12:30 ※8:00-もミサあり |
| ⑤ (幼)運動会 | 10月3日（土） |
| ⑥ 赤い羽根共同募金 | 10月4日（日）8:30 ミサ後 例年より募金額が多かった |
| ⑦ 教区こどものミサ | 10月11日（日）14:30 カテドラル |
| ⑧ バザー | 10月25日（日） |
| ⑨ 死者祈念ミサ | 11月1日（日）教区合同追悼ミサ ※（幼）出願日/入園試験 |
| ⑩ 大掃除 | 11月8日（日） |
| ⑪ 七五三 | 11月15日（日）子供たちも10：30のミサに参加する |
| ⑫ 王であるキリスト | 11月22日（日）教会委員改選・馬小屋づくり |

2. 今月までの活動と気付き・反省点等

* 特になし

3. 各委員会から

* 典礼：典礼研修会は無事終了した。昨年より参加者は少なく70～80名だった。
ミサ典礼形式の変更について11/21-22主日の各ミサ後に説明をする。

* 信仰養成：11月29日に黙想会を開催（指導司祭はカトリック中央協議会・宮下神父様）。
当日のお弁当予約は11月8日から。

* 財務：今年度1～6月の上半期仮決算ができた。一部科目を財務・営繕にて詳細確認中。
北村委員長が復帰するため、志立委員長代行の体制から元に戻す。

* 営繕：厨房の床の張替工事の詳細はこれからになるが、期間は**工事内容により最大5週間位**になる見込みであり、張替の範囲・日程等をあわせて調整。

* 広報：おとずれ次号は「王であるキリスト」号になる。

* 受付：特になし

4. その他

* バザー関連準備状況

* 渋谷教会の近藤副委員長が急死され、小野と大坪が通夜に参列した。

* 信徒名簿・整理に使用中のPC老朽化につき、新たな機械を購入し移行準備中。

次回教会委員会は11月8日（日）12：30～

次回活動G合同会議は12月20日（日）12：15～

以 上

2015年11月度 教会委員会

日時：2015年11月8日（日）12：45～14：00

出席：湯沢神父、教会委員（小野、鈴木、稲田、川島、小林、金原、茂木）、典礼（安永芳）
信仰養成（鈴木）、受付（津田）、営繕（安永三）、広報（大坪）、財務（一）

1. 2015年10月～2015年12月の行事（予定）

- | | | |
|--------------|----------------------|-----------------------|
| ① 教区こどものミサ | 10月11日（日）14：30 カテドラル | 子供・父兄 12 - 13名参加 |
| ② バザー | 10月25日（日） | |
| ③ 死者祈念ミサ | 11月1日（日） | 教区合同追悼ミサ ※（幼）出願日/入園試験 |
| ④ 大掃除 | 11月8日（日） | |
| ⑤ 玉川通宣教協力体会議 | 11月8日（日） | 宣教司牧委員を三茶から選出（任期2年） |
| ⑥ 七五三 | 11月15日（日） | |
| ⑦ 王であるキリスト | 11月22日（日） | 教会委員改選・馬小屋づくり |
| ⑧ 典礼変更箇所説明 | 11月21・22日（土・日） | ミサ後 |
| ⑨ 待降節黙想会 | 11月29日（日） | |

2. 今月までの活動と気付き・反省点等

<バザー関連>

- * 前日から設置していたテントが強風で7張壊れたが4張は修理して使用可能となった。前日の設置方法を見直す予定。（脚を下げた状態にする、脚部分の固定等）
- * バザー告知の近隣へのポスティングは止めたが、コーヒーチケット付きのチラシを教会玄関等に設置・配付したところ、チラシ持参の来場者は昨年より増加。来年も本年の方針を踏襲する予定。
- * 食券販売で残数の多いものは食数変更を検討しても良いのではないかと。
- * 食堂内に張り出す売り場案内は全売り場を平等に出して欲しいとの要望があった。
- * 園庭の休憩用等椅子が不足気味だったので来年は考慮する。

3. 各委員会から

- * 典礼：特になし
- * 信仰養成：11月29日に開催の黙想会用のお弁当の予約を本日から開始した。
- * 財務：特になし
- * 営繕：飲料自販機の契約を12月1日付で更新する。現状では使用電気代と販売マージンの差が赤字であり、これを解消するため。価格は各10円値上げになるが、逆に安くなる物もある。
- * 広報：おとずれ次号は11月22日に発行
- * 受付：AEDの電池交換をセコムに依頼。定期的（1年半程度）に交換が必要だが、特殊な仕様で交換コストも相応にかかるため、今後、教会予算としても見積もっておく必要がある。

4. その他

- * 内藤神父さま銀祝ー11月22日に霊的花束を贈呈。
- * 教会名簿管理用PC・プリンター等一新PC・プリンター・ソフトウェアの移行対応が概ね完了。名簿管理者は2人体制にした方が良いのではとの意見があり、検討課題とする。
- * アドベントの集いー5教会での話し合いを実施。特に小規模の教会にとって、ホスト教会となった際の負担感が強いことなどの理由からいったん開催を見合わせることを合意。また、当初はキリスト教の未信者に対する布教の意味合いで行っていた趣旨が変わってきていることも鑑み、引き続き5教会で連携し、どのような形で継続するかを検討していくことを確認。信徒には、主任司祭・教会委員長より後日、主日のミサ後に説明する。

次回教会委員会は12月20日（日）9：25～

次回活動G合同会議は12月20日（日）12：15～

以上

人のうごき

洗礼

おめでとうございます

2015年10月17日

イグナチオ 水野 明浩 ⑫ブロック 幼児洗礼

住所変更

2015年10月1日

ルチア 森川 洋子 ⑥ブロック内で住所・電話番号変更

2015年10月4日

マリア 大宅 彩 ②ブロック内で住所・電話番号変更

2015年10月6日

ハガリーのエルザバス 村澤 摩耶 ⑪ブロック内で住所・電話番号変更

結婚・住所変更

おめでとうございます

2015年10月31日

ガブリエル 河合 良英 ④ブロック内で住所・電話番号変更
沼田 早耶香

転出

2015年11月10日

洗礼者ヨハネ 田中 直一 ⑥ブロック 上野毛教会へ転出

帰天

主よ、永遠の安息をお与えください

2015年10月3日

アシジのフランシスコ 小堀 鞆雄 ⑦ブロック

赤い羽根共同募金について

¥40,863

日曜学校の子ども達、教会ロビーと三軒茶屋の街角に立ち募金を呼びかけ致しました。このお金は、赤い羽根基金に申請のあった福祉団体・NPOなどに送って有効利用してもらいます。

こよみ

11 月

- 11月22日(日) 年間第34主日 王であるキリスト
11月23日(月) 聖クレメンス1世教皇殉教者
11月24日(火) 聖アンデレ・ジュン・ラク司祭と同志殉教者
11月25日(水) 聖カタリナ (アレキサンドリア) おとめ殉教者
11月29日(日) 待降節第1主日 待降節黙想会 9:30 ミサより
8:00 からミサあり 指導司祭:中央協議会 宮下良平師
11月30日(月) 聖アンデレ使徒

12 月

- 12月 3日(木) 日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭
12月 4日(金) 聖ヨハネ (ダマスコ) 司祭教会博
12月 6日(日) 待降節第2主日・宣教地司祭育成の日
12月 7日(月) 聖アンブロジオ司教教会博士
12月 8日(火) 無原罪の聖マリア
12月 9日(水) 聖ホアン・ディエゴ・クアウトラトアツィン
12月11日(金) 聖ダマソ1世教皇 11月11日(水) 聖マルチノ(ツール)司教
12月12日(土) グアダルペの聖母マリア
12月13日(日) 待降節第3主日
11月14日(月) 聖ヨハネ (十字架の) 司祭教会博士
11月16日(水) 聖マリア・ディ・ローザ修道女
12月19日(土) 聖ウルバヌス5世教皇
12月20日(水) 待降節第4主日
12月21日(月) 聖ペトロ・カニジオ司祭教会博士
12月23日(水) 聖ヨハネ (ケンティ) 司祭
12月24日(木) 午後6時30分 日曜学校の聖劇
午後7時 子どもと家族のミサ
午後9時 夜半のミサ
午後11時 コンテンポラリーミサ
12月25日(金) 午前6時30分 主の降誕(早朝のミサ)
午前10時30分 主の降誕(日中のミサ)

<12月のみことば>

わたしは、静かに神を待つ。(詩編 62-2)

あ と が き

- ◇ 王であるキリスト号をおとどけします。年末・年始にかけてインフルエンザ等、かからないよう健康には充分ご注意ください。
- ◇ 今号の「おとずれ」は、湯沢神父様は「ミサの式次第変更3」と題し巻頭言をいただきました。「ミサの式次第変更」は世界中どこの教会でもミサに与る式次第を統一するためです。来る11月29日待降節第1主日より実施されます。
- ◇ 9月27日の典礼研修会レポートは、小西神父様の研修内容の詳細を掲載しております。
- ◇ 次号は「クリスマス号」(第60巻 第10号)は、2015年12月25日の発行となります。



『おとずれ』第60巻 第9号 2015(平成27)年11月22日発行
発 行 カトリック三軒茶屋教会
編集・印刷 カトリック三軒茶屋教会・広報委員会
主任司祭：ミカエル 湯 澤 民 夫
〒154-0024 世田谷区三軒茶屋2-51-32
TEL 3421-1605 FAX 3421-9788
<http://home.f05.itscom.net/sancha/index.htm>
sancha-catholic0629@leaf.ocn.ne.jp

年末・年始のミサ日程

12月24日(木)

18:00～ 聖劇と子どもと家族のミサ
21:00～ 夜半のミサ
23:00～ コンテンポラリー・ミサ

12月25日(金)

6:30～ 主の降誕（早朝のミサ）
10:30～ 主の降誕（日中のミサ）

<年末年始ミサ>

1月1日(金) 0:00～ 神の母聖マリアのミサ
11:00～ 新年のミサ
1月3日(日) 平常の主日のミサ